



お 祝 い の こ と ば

広島県知事

藤 田 雄 山

広島県酪農業協同組合におかれましては、創立10周年を迎えられ、誠におめでとうございます。
貴組合並びに組合員の皆様には、21世紀を展望した新しい組合経営への取り組みの必要性をいち早く御賢察され、全国に先駆けて県内一円の酪農専門農協を創立されました。

この間、酪農の経営環境は決して平坦な道ではなく、一層の低コスト化や環境保全対策が求められ、また、生乳販売機能強化のための中国地方一円に及ぶ広域指定団体が設立されるなど、流通体制も大きく変化して参りました。

貴組合におかれましては、常に相互協調の精神を持ち、一致結束して幾多の課題を乗り越えられ、本県酪農・乳業の発展に多大な御尽力を賜りましたことに、深く敬意を表します。

さて、最近の畜産を取り巻く情勢は、BSEや高病原性鳥インフルエンザの発生、さらには、食品の偽装表示など、県民の健康や「食」に関わる問題が相次いで発生しております。

このような状況の中、県では、「広島県食品の安全に関する基本方針」及び「食品の安全に関する推進プラン」を策定し、生産から消費に至る「食」の安全・安心確保対策の着実な推進に努めております。

今後とも、貴組合並びに組合員の皆様におかれましては、創立10周年を契機として、益々結束を強められ、安全で新鮮なおいしい牛乳を県民に安定的に供給していただききますよう、一層の御尽力を御期待申し上げます。

終わりに、広島県酪農業協同組合の益々の御発展を祈念申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



「広酪創立10周年の歩み」の取り纏めによせて

社団法人 中央酪農会議

会 長 宮 田 勇

貴組合におかれましては、このたび「広酪創立10周年の歩み」を編纂されますこと、心からお慶び申し上げます。

その歴史を顧みますと、広島県は中国地方における牛乳の加工・消費の中心地にあつて、大小多数の乳業工場が存在するとともに、他方にはこれらと結びついた多数の零細酪農協が存在するというように、古い分散的流通システムがそのまま維持され、生乳流通が錯綜を極めておりました。このようななかで、広島県内の組織整備は、厳しさを増す酪農情勢を背景に、酪農専門農協の機能強化を目指して10数年来取り組まれ、県内18専門農協と三酪連を一段階合併方式により、一挙に新たな組織に統合・一元化されて、貴組合が平成6年4月に誕生したのであります。しかも、これは、酪農協系統のみならず、総合農協系統をも含めた、県内の全ての酪農家が加入できるものとした大同合併であり、全国で本格化する一県一酪農協体制への動きの先鞭を付けるものとなりました。様々な困難な状況があったことと思いますが、これらを無事乗り越え、貴県酪農をリードし、新たな礎を築き上げられ、ここに10周年を迎えられましたのは、役職員並びに酪農家の方々の熱意とご尽力、ご努力の賜物であり、改めて深く敬意を表する次第であります。

最近のわが国の酪農は、WTO農業交渉が今年末までの終結を目指して再開されるとともに、またFTA締結交渉も本格化しようとしております。これらの結果如何によっては、国内乳製品市場をめぐる競争環境が変化し、本格的な国際化の進展が避けられないとも考えられます。一方、国内では、都府県での生乳生産が停滞するなかで、畜産環境規制の強化が間近に迫っております。国においては、「食料・農業・農村基本計画」の見直し及び「酪農及び肉用牛の近代化を図るための基本方針」の策定が行われておりますが、財源が縮小するなかで、従来のような補助事業を通じた酪農への支援も困難となることが想定されるなど、内外ともに厳しい状況にあります。

こうした情勢下、酪農経営の安定を図るためには、指定団体との役割を明確化した上で、貴組合の一層の努力が求められると考えられます。また、近年、消費者の食の安全・安心への関心が高まるなかで、高品質な牛乳を供給するため、より適切かつ緻密な対応が求められるなかで、営々と築き上げられてきた貴組合のご指導が、広域指定団体の活動にあつて、大きな支えとなることと確信いたしております。

このように、変革の時こそ発展の時でもあるといえますので、今後ともより一層のご尽力によりまして、生産者の皆様が将来に展望をもて安心して生産に専念できる酪農の振興が図られますことを祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。



広島県農業協同組合中央会
会 長 児 玉 静 秋

広島県酪農業協同組合が設立10周年を迎えられ、ここに「広酪創立10周年の歩み」が発刊されますことに対しまして、心からお祝いを申し上げます。

貴組合は平成6年4月1日、酪農経営の維持・発展をめざして、県内18の酪農専門農協が合併し、全国初の県内一円を区域とする単一酪農専門農業協同組合として設立されました。

設立当時は、ガットウルグアイラウンド交渉に代表されますように国際化の波が急速に押し寄せ、さらに産地間競争の激化等乳価をめぐる情勢も厳しい中でスタートされ、爾来、県産生乳の自給率向上や安定供給の維持に努めてこられました。また、「ゆとりある酪農経営」への取り組みとして酪農ヘルパー制度の導入等担い手の育成・確保に向け様々な取り組みを行ってこられるなど本県農業の振興に積極的に取り組んでこられました。

この間の歴代の役職員並びに会員の皆様方には、幾多の困難を乗り越えて今日を迎えられ、そのご労苦に対しまして心より敬意を表します。

依然として今日のわが国の農業をめぐる情勢は厳しく、グローバル化や市場主義化が進展する中で、WTO農業交渉やEPA交渉等において、農畜産物のさらなる市場開放に向けた圧力が強まっています。

また、国内におきましても、少子高齢化や農家人口の減少に伴い担い手不足や耕作放棄地の拡大等農業生産基盤は弱体化しつつあります。こうした中で、将来の日本農業の存亡を決定づける「食料・農業・農村基本計画」の見直しがすすめられるとともに、「三位一体改革」による構造改革や規制緩和が農業分野にも着実に押し寄せてきています。

一方、BSEや鳥インフルエンザの発生をはじめ相次ぐ偽装表示や残留農薬の問題等から国民の食の安全・安心に対する関心は日増しに高まっております。

J Aグループ広島は、昨年11月、第23回J A広島県大会を開催し、本県農業の振興はもちろんのこと、生産履歴記帳運動や地産地消運動の展開等を通じて食と農の距離を近づけ、安全・安心な農畜産物の提供に向けた取り組みをJ Aグループ広島が一体となって展開することを決議いたしました。

今後とも、貴組合との連帯を一層深め、共に生産者としての責務を果たしながら、地域の皆様方から一層の信頼と共感が得られる事業運営・組織運営をめざして運動を展開してまいりたいと思っておりますので、引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、この記念誌の発行を契機に、さらに会員の結束を固められ、本県農業の振興にご尽力賜りますとともに、貴組合の今後ますますのご発展とご繁栄を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。